

かれい

嘉例のながれ

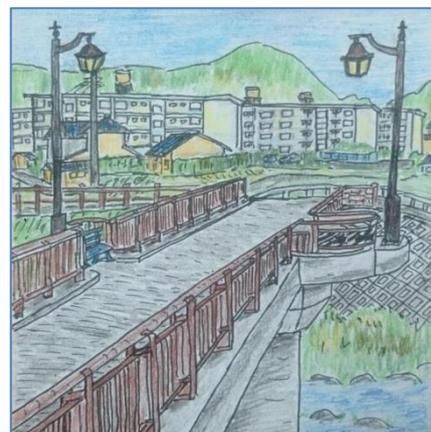
江迎小学校 学校だより

平成30年度 第9号

平成30年6月29日（金）発行

文責：校長 立木 昭夫

今日は、6月最後の登校日です。「いのちを見つめる強調月間」も今日で期間を終了します。月間中の様々な活動では、保護者の皆様、地域の皆様にはいろいろとお世話になりました。「いのち」や「思いやり」について学習を深めてきましたが、まだまだ課題はたくさんあり、今後も継続して学習していかなければなりません。みんなが自分のいのちも人のいのちも大切にできるよう、思い合いを深めていきたいと思います。



【ふるさとの風景⑦】正解は
「三浦ふれあい橋と団地」

<道徳授業参観、ありがとうございました>



22日（金）に行いました、道徳授業参観には、たくさんの保護者の皆様、地域の皆様にご来校いただきましたこと、心からお礼申し上げます。

いのちを見つめる強調月間での授業ということで、各学年とも「いのち」または「思いやり」を題材に授業を行いました。生命の誕生や兄弟への思いやり、親切など、それぞれ

の学年、学級の子供たちに合った内容を担任が選んで実施しました。子供たちは、教師の話をしっかり聞き、意見を述べる事ができていました。学習指導要領の改訂により今年度から、議論する道徳を目指して授業を行っています。その視点からすると、まだ、子供たちの意見の出し合いやぶつかり合いが十分見られたとは言えず、学校としては課題が残りました。また、特に今回の授業では、保護者の皆様にも一緒に考えていただきたいと思って授業づくりを行っていました。遠慮されたのか廊下で見られている保護者の方が多数いらっしゃって残念でした。「いのち」や「思いやり」については、子供だけで考えても深まりません。学校だけで考えても深まりません。家庭でも地域でも身近にいる大人と一緒に考えていかなければならない問題です。

<6. 29平和集会（佐世保空襲の日）>

今日、6月29日は、73年前に佐世保空襲があった日です。佐世保市の学校では、その日に合わせて、毎年、平和集会を行っています。本校でも、朝の時間から1時間目まで実施しました。

まず、校長から話をしました（後掲）。その後、「夏の少年」という佐世保空襲を題材に



した物語（絵本）の読み語りを行いました。この話は、佐世保空襲で親を亡くした少年が怒りから鬼になり、現代に表れて、同じ年頃の少年に、空襲の話をするという物語です。戦争が人を鬼にしてしまう悲しさや平和の大切さを伝えています。そして、原爆（戦争）の悲しさと人の魂の尊さを詠った「くすのき」という歌を全児童で歌いました。

各クラスにもどって、戦争と平和について、集会を振り返りながら考えました。

【6.29 平和集会での校長講話（概略）】

その場にいないとわからない。 だから、知ろう。戦争と平和。

昭和20年6月28日の夜から、翌29日深夜2時頃まで、佐世保の町がB29という飛行機によって空襲されました。今から73年前の今日のことです。今の四ヶ町、三ヶ町アーケード、市役所があるところなどが焼け野原になり、千二百人以上の人が亡くなりました。「もう今日は来ないだろう」という、市民が思ってもいない突然の深夜の空襲でした。

校長先生のお父さんは、83歳になります。子供の頃から何度も聞かされた話があります。それは、佐世保空襲の様子です。73年前ですから、佐世保空襲は10歳の時、5年生だったそうです。家は町から離れた山の上であり、大きな音で目を覚まして、そとに出てみると、目の前が昼間のように明るく、たくさんの火の粉が佐世保の町に降り注ぎ、町は真っ赤になっていたそうです。遠くから見るととてもきれいだったそうです。でもその下では、千二百人も命が消えていたのです。

そんなお父さんのお父さん、つまり校長先生のお祖父さんは、そのとき外国のフィリピンいうところに戦争に行行って戦死しました。だから、佐世保空襲の時には、校長先生のお父さんは、すでに父親をなくしてしまっていたのです。でも、そのことは知りませんでした。

その場にいないければ、恐ろしい爆弾も、火の海の空襲も、美しく見えてしまう。でも、その下では、たくさんの方が亡くなっている。恐ろしいことです。私たちも戦争を知りません。その場にいたことなどありません。何も分かっていません。

だから、戦争と平和について勉強しなければならないのです。今日の集会では、しっかりと話を聞いて、皆さんの感じる心と考える頭に刻みつけてほしいと思います。



焼け野原になった佐世保市街地